

と信じて居るから、あゝさせて居るのです」と云はれました、次に「子供に笑顔の少いのはどういふわけ?」「あれは心の中で愉快して居るのであつてお祭騒ぎのやうに表面にあらはれないだけです」「欠伸のないのは」と問ひますと女史は私の顔をはつと見なほして「あなたは子供が疲勞すると思ふのか」と云はれました。そして、「あれは子供が好きな事を自由にして居るのであるから疲勞を感じないので」と云はれました「先生は四歳半迄の子供の玩具を御備へになつて居るやうですが、此の上に作られる積りか」「作らない積りである、只だ花園を作くらせたいと思ふ」「しからはフレール派の主義と、先生の主義と

はどう違つて居りますか」「フレールは理屈から割り出して、いろ／＼の事にあてはめたので演釋的であるのに、自分のは種々の材料を勝手に取扱はせてをいて、それを統一して來る即ち歸納的である」との事でありました。

それから「どなたか、先生のお弟子が日本へいらつしやりはしませんか」と問ふと「ミス、クラインが行く事になつて居る」と答へられました。

ミス、クラインは只今小石川のブラツクマホームに來て居られます。そしてあの派の幼稚園教育を實際に施されると聞いて居ります。

(筆記、文實在記者)

京阪神幼稚園の視察

麴町小學校長 土川 五郎

私が今回京阪地方へ参りましたのは、京都の拜觀が主なる目的で、それにかねて教育觀察を致したのであります。で、一昨年の如く矢張幼稚園のみ參觀致しました。但し今回は見方を換へて保育の實際方面を主と致したのであります。

觀ました幼稚園は、京都一神戸三大阪三都合七園で、それを六日間に參觀したのであります。

○京都生祥幼稚園

先づ第一日には京都の生祥幼稚園へ参りました。この幼稚園は姫宮さんの主任せられて居るので、一昨年は未だ再興したてでしたから特に今回參觀を致した譯であります。

丁度會集も終り遊戯を致して居られました。保姆は皆にこやかに活潑に、幼兒は至つてしつかりと力を入れて元氣がありました。摸擬行進や雀などまことに嬉れしように致しました。之れに伴ふ唱歌も良く歌へました。次に隨意遊戯に砂場に四

五人、廊下に七八人の女子は巧に毬つきの競争、屋内遊戯室では、積木を玩ぶ一團、板排へをして居る一群、モンテツツリーノ色の玩具に二人、築山のあたりに一群、何れも眞の遊戯的で積木などは子供としては大仕掛でさも嬉しうであつた。室内の積木より板排へよりも興味と自由がみなぎつて居つた。併こゝに注意すべきは運動といふ事である。生祥でもこの點は注意があつた様であるが、殊に寒ひ日には身體の温たまる程に運動せしむる事も大切である。

室内保育を見たいと思ふたが、折あしく組の編成を更へる時であつた、こゝで目に映じたのは保姆と幼兒が如何にもよく調和して居つた事である。

こゝの幼稚園では身體検査を綿密に調べてあつた。又知力検査も行つた其結果良好であつた。

○武徳殿での幼稚園可否の噂

午後二時頃にこゝを辭して武徳會に行つて弓術を見、又自分も仲間となつて射た。その時會して居るもの男四人に婦人一人あつた。其婦人に六歳の男兒があつて、頻りに母に何かねだつて居た。

母は「此の子はおそ生れであるから、さ來年小學に行くが、それ迄は中々大へんである」と云ふ、と一人の男子は幼稚園に入る、事をすゝめた。別の一人曰く「いや幼稚園はいかん、そう、私の親戚の者で小學教員があるが、どうも幼稚園から來た子はやんちやんで困るといつた」と而して私が東京の者なる故か次の辭を加へた、「東京やほかは知らんが京都では、此の事は妙に私の耳朵を打つた。

○神戸幼稚園の山行き

翌日十時に神戸幼稚園に參りました。會集もすみ遊戯も終る處であつた。此の園は望月氏の主宰で、同氏は女史として理論も長じ、發表も計畫も

中々する人ですから、此園の實際を見たいといふ希望であつたのです。こゝでは園の仕事として幼兒を二分し、大きい組と小さい組とが隔日に山登りをする。即ち園外保育をするので、今日は、小さい組が致しますので、私も一處に望月さんと參りました。保母三人で三組に分ち二列で參るのですが、もう習慣がよくついて居て、すん／＼履物をかへて獨りで列を作りて出掛ける。途中時々駆走などして參るにも、さして監督を要せぬ。

幼兒は互にいろ／＼の話し合をして行く。諏訪山に登らんとする時、一組の四五人が輿に乗じて俗謡を歌ひかけた。附添の保母が其歌の切れ目にかさず、「萬世一系」と唱歌を唱へると幼兒は其唱歌の方へ釣り込まれて、俗謡は御大典の歌に美化して終つた。惜しい事には其唱歌は調子の高いのであつたから長くは續かぬ。併し保母の希望は成つたのであつた。石段又石段、坂路は随分長かつたが幼兒は下駄のまゝで實に達者なものの第一の

公園に登り休憩もなく又登り始めて、遂に最上の公園に到着した。神戸市を眼下に見て展望の域は甚だ廣い。幼児の嬉しそうな其喜び、あちらの電車こちらの汽車互に談話の交換をやる。先生を中心としていろ／＼の發表をする。後の方では松葉と竹の葉を持つて來て飛行機を造る。其考への簡單にして巧妙なのに感服した。園を出發する時間が遅かつたので歸りを急ぎ、幼児はもつと見たい遊びたい、中には錨山の方へ尙進まんとする勇氣と興味とを有して居るのを割愛して途をかへて歸路についた。此の下り坂は一寸急な所もあるが達者です。到底私共の幼稚園では出來ない位です。望月さんは慣れて居らぬ幼児について、ちよい／＼と小足に歩ませることを聲で教へて行かれる。中々巧みなものです。中にはすべつて尻もちをつく女の兒もあつたが、ゑへいと笑つて獨りで立ち直つて下りて行く。實に練習の功は恐ろしいものです。歸園の後に食事がすむ。

午後室内保育を見た。ひと組は積木(自由)

ひと組は書き方、これは月一回づゝ人を畫くので丁度その時に當つて居た。これは多分研究的のものとして推察される。次の組は足袋のはきかへで、こはせを掛ける練習を競争に結び付けたので、モンテッソーリのホック掛けが日本化して實用的に競争的に變つたので面白かつた、唯小供を見ると草履のあるなしカバの取扱等で小供々々によつて速度に差を生ずる場合があるから、公平といふ事の伴ふ事が大切であらうと思ふ。

幼稚園に於ける、競争遊戲にも種類が澤山あるが、其競技によりて種々の公平を保ち難いのがある。幼兒は未だ其れ等の綿密な頭が無いから、不平は云はぬが、保母は其心を組み取つて極く綿密に此の點を考へてやらねばならぬ。旗送り、旗まはり、球拾ひ等にもそう云ふ事の注意が缺けて居

ると、幸不幸が實力如何によつて定まらないで、其間によくない性質も出て來ると思ふ。この事は此の園であつた事實ではない。競争遊戯について此點の注意に缺けて居る事が、小學校の下級や幼稚園などではよく起り易いから特に申上げて置くのです。

○宇治川保育所

午後二時に當園を辭して宇治川の保育所に參りました。此の保育所は貧民部落にある托兒所であつて、生後二十日から満五歳までのものも預かる所です。有田主任の溫容に接し、嬰兒幼兒を見て如何にも其仕事の神聖なのがよく分りました。二階には二十人計りの子供が搖籃の中に乳をのみ小さき遊び場に力なき歩みを取つて居る。下には四五歳のものが積木をやつて居る。二階に二名、下に一名の保育者があつて、自分の子の様に扱つて居つた。丁度間食を興へる時が來たので、下の

大きい子供には煎餅一枚半、小さい子にはおこし二つ、實に其食して居る様は何とも云へぬ感に打たれました。此の献身的事業を薄給に甘んじて従事さるゝには、何かより所があらうと思ふて、ぶしつけに尋ねました。主任の外に保育者三人、下働き二人（一人は炊事一人は洗物）皆クリスチャンで又同じ不幸な境遇にある人々であつた。信仰なくて中々に永續するのは稀れである、幼兒は一日三錢で預かるので、食事から一切の費用の大部分は寄附によるのである。幼兒は毎朝母をせかせて嬉んで來る。先づ目を洗ふて（皆トラホーム）衣服の汚れて居る者は着更へさせる。

かゝる保育所は神戸市に四ヶ所あるといふ事です。市に於て十分の補助を興へて、此献身的に従事せらるゝ人の待遇を高めて其志に酬い、設備をよくして貧兒なるが故に特に清潔なる衣服、面白き玩具、愉快にのびくと遊べる遊園を作つてやつたらば、誠に結構だと思ひました。序に付け加へて

置きたいのは此の保育所を終つた子供は、清風幼稚園に一年入つて後小學に行くとの事です。

○望月女史の會集

此の日は大阪に参り一泊し翌朝再び神戸へ参りまして、神戸幼稚園の會集を見ました。

朝早く行つたが既に望月氏の室には大阪の膳氏が來て居られた。望月氏は膳氏に龍の話をしてくれと乞はれ、膳氏は土川さんがお出でなつたのだからと、望月氏に譲り、其間の問答掛引き中々に巧妙なものでした。遂に望月氏が司會する事になつた。前日に園に飼養してあつた小鳥が死んだ。其の小鳥が其の材料になつた。

二百名近き幼児の前に望月氏は此の小鳥を示し其來歴、園にありて皆を喜ばせて居つた事より同、居して居る雀の不心得より死に至れる一通りを語る。全幼兒肅として耳を傾け同情の感、顔に表はれ其司會者の言語態度實に手に入つたもので、其

情も適當に喚起された。終りに此鳥は明日埋葬してやるから、嘴も羽もどこもよく見てやつて頂戴と觀察に移して終つた。殊に有益に拜見した。次に椿と天笠葵と何れも花開けるものを提出して、ひらいたく何の花がひらいた椿の花(葵の花)が開いたと手拍子打ちて行進に移る。當園創作の鸚鵡の遊び、昔しの家鳩の遊戯に似て幼兒には面白いものと思ふた。

當園は望月氏が全力をあげて献身的に主宰されて居るから活氣が満ちて居る、女史は随分根氣よく何でも細かに調査研究してよいとなると之れを徹底させねば止まぬと云ふ様に見える。テストの如きも三田谷氏ので満足せずして、所謂望月式に變化させて居らるゝ所がある。

○兵庫幼稚園

午後ここに辭して兵庫幼稚園を見た。こゝは榎本女史が園長で幼兒百四十名、自由に室外で遊

んで居つた。やがて食事となり再び運動場に思ふまゝの活動を取つて居た。次に室内保育に移りひと組は唱歌、ひと組は糸巻競争であつた、これは一定の長さの糸と、わくとを持つて同時に巻き始める。右手で十回左手で十回、結構な遊びで皆一心になつてやつて、先きに巻き終つたものから順次に黒板の前に立つ。其喜び顔は可愛らしいものであつた。序に此の競争では糸の長さを一定することは勿論であるが、右手十回左手十回は一寸幼兒が競争熱の昇騰の場合に誤り易い。勝敗の一回は右手のみ、次の勝敗には左手とすると誤りなく公平にゆくものである。次に一の組の圖畫、よくか

いた紙の表裏共に使用したのは經濟的で幼兒の思ふことをかく事が出来る。他のひと組は庭で競争をして居た。活潑で中々努力が見えて居つた。

此幼稚園は一體に和氣が満ちて居て、別に束縛がなくしてよく纏まつて居るのは實に價值ある事と思ふた。

○大阪船場幼稚園

廿六日から大阪市の幼稚園を見る事とした、先づ船場幼稚園へ参りました。小學校の附屬で主任は金谷女史である。實におだやかな品位を持つた風采と動作は此幼稚園の平素の教育を想像するに難からずと思はしめた、私は京都から風邪を持越して随分苦しんで居たが元氣を起して參觀に來たのであつたが、この校長と金谷主任も風引きで主任は少々私より後れて出勤された。主任の見えぬ内は次席の保母が應接をされた。何かお尋ねがあれば知つて居るだけは御答を致しますと、明確な御挨拶で誠に頼母しいと思つた。

幼兒の教保母の出身など、いろいろ伺つて居ると金谷女史が見えた。

私は幼兒を見たいので、應接室に居る間も窓から庭を見下して居ると、可愛らしいのが、あちらにもこちらにも、しかも少しも寒そうにして居ない。

女の子で一人廊下に毬をつく。初めは手でついで少し勢がよくなると片足を揚げて巧に足尖で毬をつく。凡そ八回位つく。足で毬をつくのを見たのは始めていゝつた。

やがて會集が始まるので下に行つて拜見した。

三十位の保母が司會者で談話があつた。題はしひて付ければ日露親善とでも云ふべきか。丁度露太公殿下の御來阪の後であつたからで、小學校の兒童が旗を持つて歓迎に出る所が、雨天のために其旗を用ひなかつた。それを昨日幼兒に貰ふた。其邊から題を定めたらしい、黒板に露兵が旗を先頭に立て、五六人の行進の圖が畫かれてあつた。先生は先づ第一に此の旗はどここの旗かと發問された。アメリカと云ふ兒が多かつた。困つて居られるとロシアと云つた兒があつたので、漸く話題に入ることが出來た。旗を色チヨークで三色に幼兒の持つて居るものと同じやうに表はしたら、さのみ六ヶ敷くはなかつたのでせう。話しの意味は露帝の

一番親しい太公殿下を日本の 天皇陛下の處へ御遣しになつて、いろ／＼の結構な品々を差上げ、我 陛下からもくさ／＼の美事な品を差上げたといふやうな話して、誠に平たく幼兒に分るやうに説かれたのは感服でした。かう云ふ皇室に關する話は露國と我國との釣合を同じ様に使ふ事は一寸間違易いこと、思ふ。終つて隨意遊戯に移り、砂場や滑り臺其他思ひ／＼に噓々として遊ぶ。全體から見ると自由になか／＼と纏まつて、保母と幼兒の間の親密に、且保母の態度の立派なこと、幼兒の元氣ある點はたしかに平生の努力の表現であると思ふた。應接室に戻つて女史と相對すると、種々の疑問を出された。問ひが私から出ないで向ふから出るのは妙だ、考へて見ると平素研究の結果疑問があつて、解釋を參考として要求されたので、其熱心なのに感じて、私も無遠慮に思ふ所を述べました。

女史は私を如何に見られたものか、幼兒に何か話

せよとのこと。私は幼児にあまり話したことはなし、大阪地方のアクセントと關東辯では大分違ふから其故を以て辭したが、東京のお方の話しは分るとの御挨拶で、とうとう征服されてしまつて、幼兒全部を集めてお伽噺。何んと云ふ大膽でせうか。旅は恥のかき捨とは申せ、東京で恥がさらし切れずに、大阪まで持ち込むとは心に恥ぢました。が、同じ保育の道に盡す女史のきれいなお心に釣られて遂にかゝる境涯に落ちた。併し幸に子供が私の心を組み取つて、大人しく喜んで長い話を聞いて、よく分つたとの事で漸く胸を撫で下した。次は大寶幼稚園にと向ひました。

○ 大阪大寶幼稚園

大寶幼稚園も小學校の附屬で、尾崎女史が主任であつた。こゝは運動場が小學校のみにあるので、これを使用するために午後一時から保育を始めて居る。これは他に見る事の出来ぬ所である。前の

幼稚園で話した関係でお伽噺をこゝでも致しました。女史は就任して三年、此園を十分に發達させて思ふ所を徹底させたいといふ意氣は私を強く感せしめた。女史が主となつた模擬運動(體育的)と表情遊戯を三つ、實によく締つて且面白く元氣ある動作であつた。室内にてひと組は貼付け、これは中々よく出来て、圖案的に對照よく多くの飄筆と花とを貼り、幼兒が努力して其成績を見ては喜びの色を表はして居た。次の組は繋ぎ方であつた。こゝは取扱ひが至つて老練であつたが、順序と配付と、これを繋ぐ注意とに今少し力を加へたら、申分がないと思ふた。次は書き方で飛行機を數種に書き分け、自由に其一を選擇せしめて居つた。幼兒は中々上手に、そして嬉しそうに私にも見せて居つた。次は箒の繪であつた。家や門や文字を、出来たものより取換へて根氣よく遊んで居た。こゝは午後の始まりといふ變態で、保育室も遊戯室も其構造の不完全な中に良く幼兒を取扱ふて居

らるゝ。かゝる處に保育を施すは随分骨が折れると思ふた。保母がやさしく幼児に接して、而かもよく引きしまつて居る所は、たしかに此園の長所である。

○大阪江戸堀幼稚園

次に江戸堀幼稚園に行つた。一昨年參觀して報告した事があつたが、用事をかねて訪問をした。丁度遊戯であつた。馬の遊びを此頃團體競争に仕組んだとの事で拜見した。

木練瓦を一定の場所から一組八人宛二組各自に運んで木馬を造るのである。木馬が出来ると、先生から旗を貰つてそれに乗る。實に得意満面に溢れて居た。八人一組が早く皆一様に旗を肩に馬に乗り揃ふたのが勝である。子供の遊びを調査して團體競争に移した所が貴い事と思ふ。唯まはりに見て居る同組の幼児の處置を考ふる必要がある。此子供も源平各組に分つて、己れの組に聲援を與へ勝敗の中間に入れた方がよいと思ふた。

次にボートを作る競争、これは各十人一組とし源平に分ち、一組で一艘の舟を木練瓦で作る。作り上げた組は其の舟の中に漕ぐ姿勢に位置を占める。而して勝敗が決するのであつた。

次に毬拾ひで散亂して居る毬を二つの籠に入れて早く己れの組の色毬を入れ終つた組が勝とし、これを又保母が其二つの籠の毬を少し移しかへて重量に大差なからしめ、幼児全體をして重さを檢せしめ、重しと思ふ者は其籠の方に並び、最後に天秤にかけて輕重を明にして、勝敗を定める。至極よい思ひ付きと思ふ。こゝでも強ひて請はれたので話し方もし、互に打わけ話しもして交換致しました。自然物の應用は膳女史の獨創、しかも一昨年とは又進んで居る事を見た。

先大阪も短時日であつた爲に、豫定通りの參觀も實行出來得なかつたが、此の三日は自分に取つて十分の利益を與へられた。

尚京阪神共に何處に行つても快よく同じ仲間味方として厚き待遇を受け打解けた快談を爲し得た事は深く感謝する處であります。